

# 岐阜県経済の現状



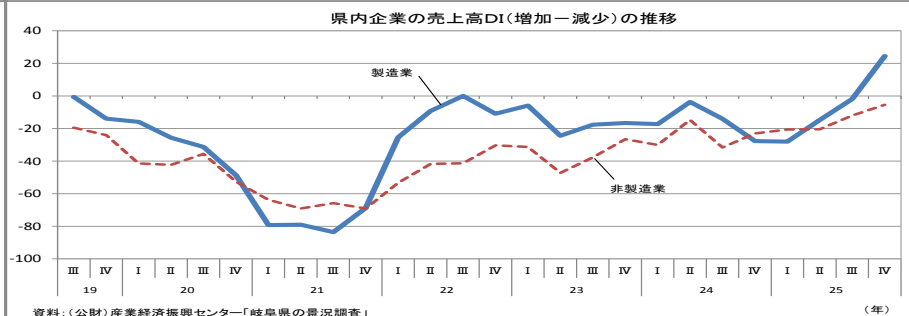
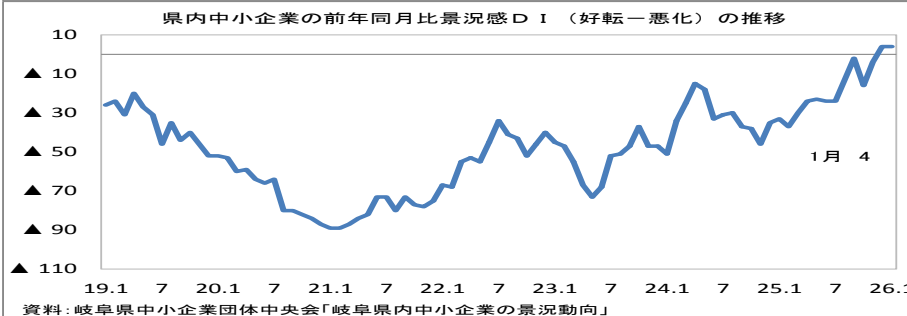
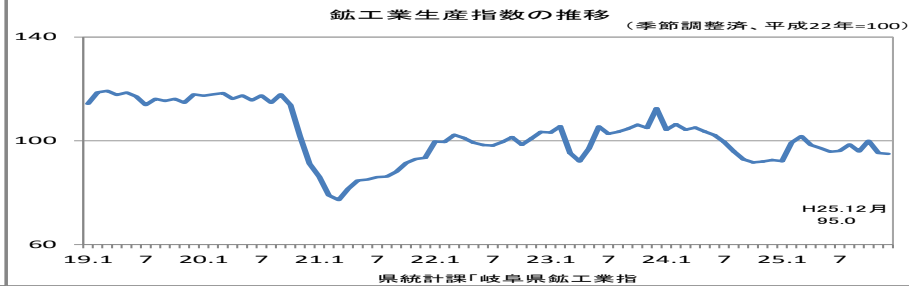
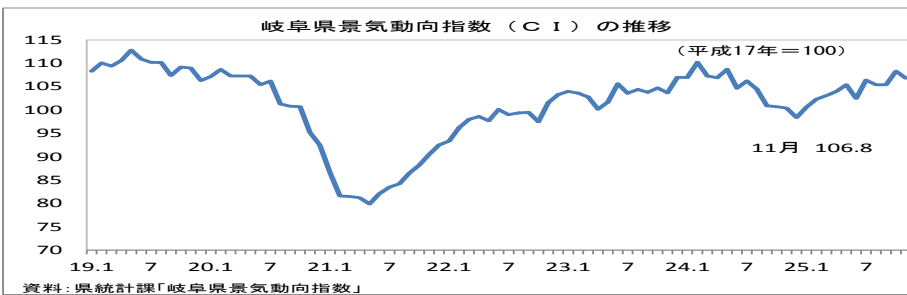
平成26年2月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは2月26日～28日を中心に実施し、3月14日に作成。

# 景気動向・製造業

○平成25年11月の景気動向指数(CI、一致指数)は106.8と前月より1.9ポイント下降。県内中小企業の1月の景況感はプラス4であった。

○平成25年12月の鉱工業生産指数は、0.3ポイント減の95.0となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。



## 現場の動き

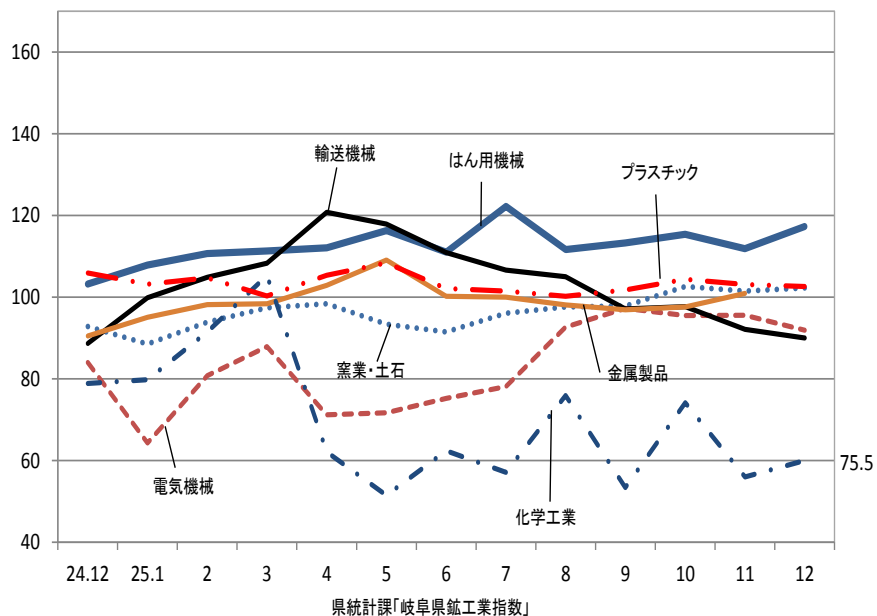
- ◆トヨタ全体の生産量が伸びており、引き続き好調な状況が続いている。
- ◆3月末までの納車が間に合わない機種があり、売れ筋の物件が雪の影響もあり大きく不足状態となってきた。
- ◆販売量は、対前年度比で10%増加しているが、売上げについては、先々月から燃料の急騰によりそれほど伸びてはいない。(以上、輸送用機械)
- ◆受注量、売上額ともに、対前月比、対前年同月比で増加。国内人気車種と北米輸出車の自動車部品が更に増量している。(生産用機械)
- ◆2月は1月、12月と比べて若干増えている。国内の消費税増税や建設機械の排ガス規制強化に伴う需要増のほか、中国の景気回復を見越した前倒しもある。(はん用機械)
- ◆2月度の単月売上高はほぼ前年を見込むが、収益面は原料価格の高止まりが続いており極めて厳しい。
- ◆引き続き好調な状況で、1月には新規部品の発注もあり出荷量増となっている。(以上、プラスチック)

# 製造業-2(業種別)

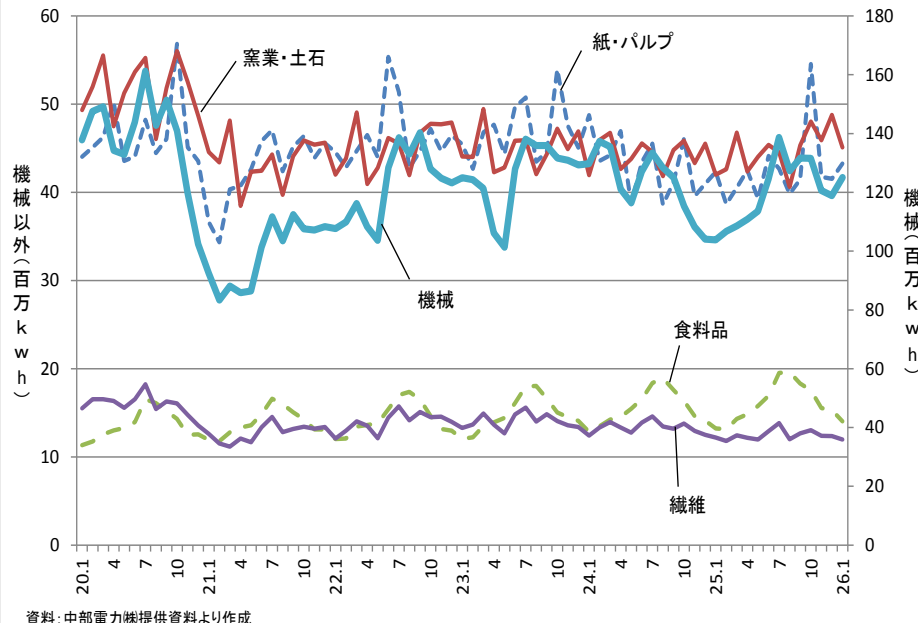
○25年12月の生産指数は、窯業・土石、はん用機械などで上昇したものの、電気機械、輸送用機械、プラスチックなど多くの産業で低下した。

○1月の工場向け販売電力量は、繊維で前年を下回ったものの、紙・パルプ、窯業・土石、機械で前年を上回った。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成22年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



## 現場の動き

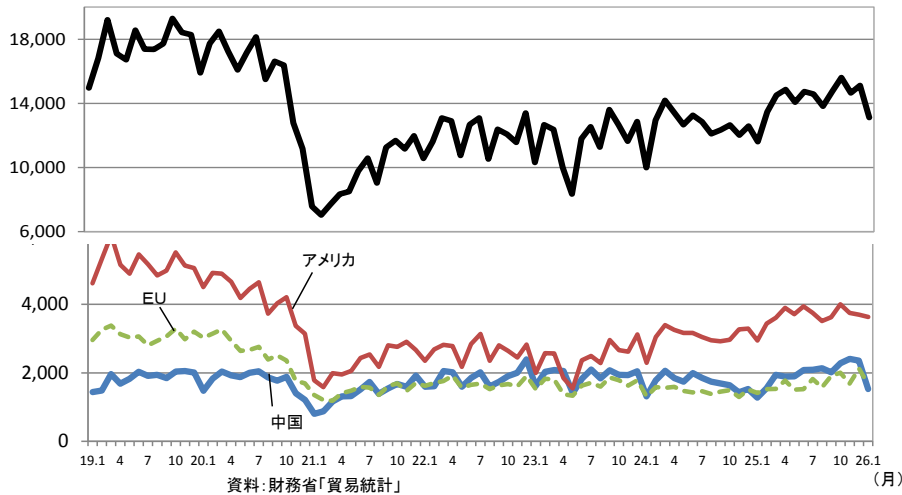
- ◆冬・春服は苦戦している様子。消費者の消費意欲は低いように感じる。(アパレル)
- ◆昨年は、ほぼすべての組合員が、出荷量、出荷額とも減少し右肩下がりと感じていた。(陶磁器)
- ◆円安の影響から海外販売は比較的好調であるが、在庫の問題もあり、必ずしも円安＝好業績と簡単には結び付かない。(刃物)
- ◆景気は例年のこの時期に比べて大差なし。(紙)
- ◆1、2月は、年末から引き続き好調を維持している。OEM生産、自社商品生産、両方とも好調。(木工)
- ◆工場全体としては、全体の売り上げは増加を続けており、前期と比較して10%の売り上げ増となっている。(食品製造)

# 輸出

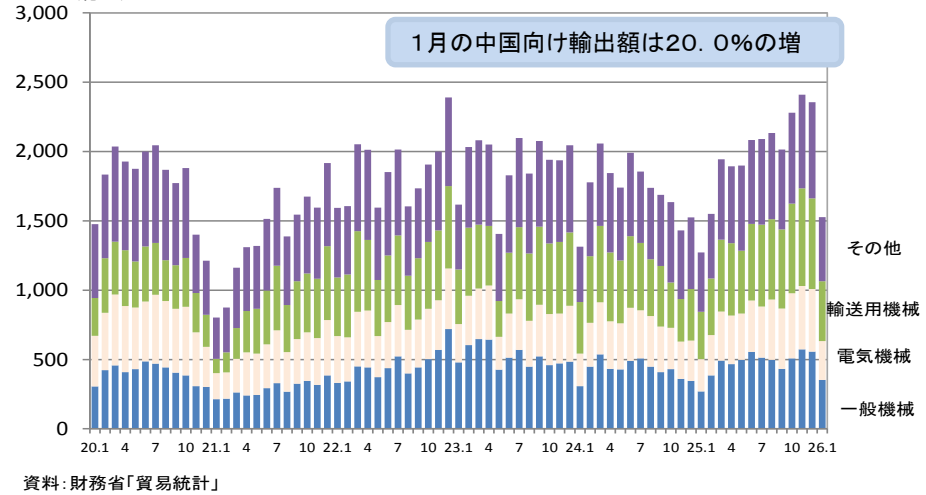
○1月の輸出額(名古屋税関管内)は、13,110億円と前年同月比13.0%増となった。

○中国向け輸出は一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比20.0%増と10カ月連続の増加となった。アメリカ向け輸出も一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比23.3%増となり、16か月連続で前年を上回っている。

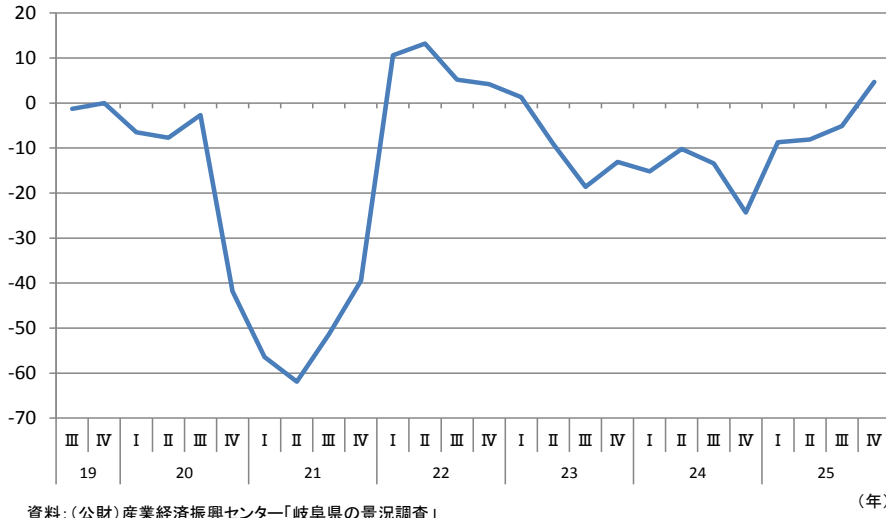
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



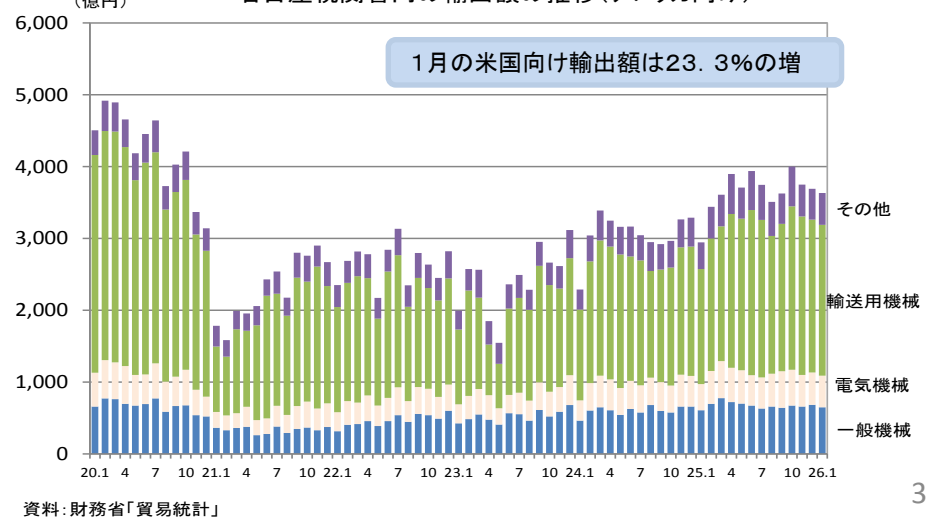
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)



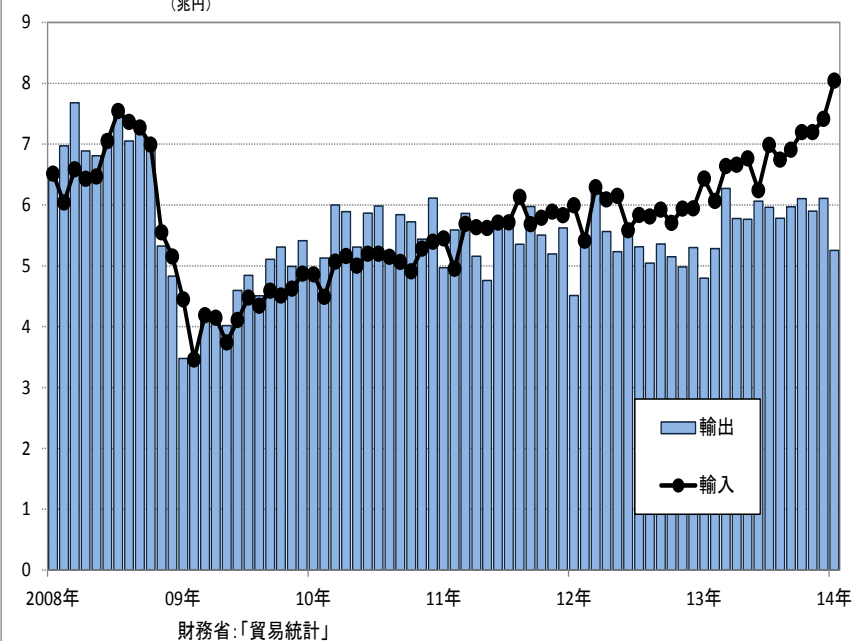
## 円安・原油高等による影響について

- ◆原油価格が高止まりしているため製造経費を押し上げており、利益を圧迫する要因となっている。(食品製造)
- ◆LNG(液化天然ガス)は1月から大きく価格が高騰しており、今月も引き続き高い状況にある。
- ◆主たる原材料であるアルミは夏以降上昇が続いており、現在も値上がりが続いている。(以上、輸送用機械)
- ◆円安により原材料費が上がっており、高止まり傾向が続いている。取引先との価格交渉を行っているが、価格に転嫁できず収益を圧迫している状況である。(金属製品)
- ◆円安及び原油価格の高騰の影響により、原料仕入れ価格が上昇している。(プラスチック)
- ◆史上最高値となる燃料の高騰は4月の消費税増税に伴う受注減予想と同じく、陶磁器業界において大ダメージを与えている。(陶磁器)
- ◆原材料価格については、昨年秋ごろから取引先から値上げの要請が来ている。しかし、製品への価格転嫁はなかなかできず各社の様子をうかがっている。(刃物)
- ◆仕入れ価格の上昇分を新しいカタログができた12月1日より価格転嫁した。(木工)
- ◆燃料高騰は苦しいが、お客様の荷主も原材料などが値上がりしているため、運賃の値上げには応じてもらえない。燃料サーチャージも受け入れてもらうのは難しい。(運輸業)

## アベノミクスの効果・影響について

- ◆顧客からの増産依頼等はなく、消費者の購入意欲には繋がっていないと感じられる。(食品製造)
- ◆消費マインドの向上で所得の増加を目指した就労意識も高くなってきている。
- ◆アベノミクスの効果としては、景気が上向きになっていると感じられる。(以上、輸送用機械)
- ◆アベノミクス効果として未だ感じられない。(プラスチック)
- ◆アベノミクスの効果は全く感じない。(紙)
- ◆アベノミクスは当初気分的に財布の紐が緩む効果があったと思うが、現在はあまり感じられない。
- ◆アベノミクスは地場産業にまで効果が表れていないと思う。地場産業がよくなり、消費が回復することを期待している。(以上、商店街)

輸出入額の推移(全国、月次)



## 4月からの消費税増税の影響・懸念について

### 【製造業】

- ◆消費税率引き上げに備えての前倒し生産の依頼はない。逆に、包装材料に単価が記入されている製品は、生産調整により注文が減少傾向となっている。(食品製造)
- ◆消費税増税の影響は、過去に3%から5%に増税になった時と比較して、自動車業界だけでなく各業界ともに駆け込みの消費は少ないように思われる。
- ◆引き続き好調だが、消費税増税前後で国内需要は上下変動が激しいと予測。(以上、輸送用機械)
- ◆消費税増税後の反動減がどれほどのものなのか、顧客自身が分からない為、受注の予測が立て難い状況。(生産用機械)
- ◆消費税増税後は、出荷量の減少を大変懸念している。(金属製品)
- ◆消費税増税前の駆け込み需要により出荷量が増加しているが、4月以降は出荷量の減少を懸念している。
- ◆増税分はコスト削減で対処することになり、収益面は圧迫されると推測されます。(以上、プラスチック)
- ◆消費増税前に前倒しの注文が入ると睨んでいたが(3から5%に上がったときには前倒しの注文が殺到した)、今回の増税に関しては、まったく影響がなかった。(アパレル)
- ◆消費税増税前の駆け込み需要がでていて受注は堅調である。その一方、生産が追い付いておらず、売り逃しが出ている。(刃物)
- ◆消費税増税について、同業者内では駆け込み需要が始まったという話を聞くようになったが、弊社には今のところ大きな波はきていない。(紙)
- ◆消費税増税前の駆け込み需要が増えていることが、好調の要因として考えられる。(木工)

### 【小売業】

- ◆消費増税にそなえて、ストック型商品と呼ばれる保存商品が活発に売れている。特にエアコンや冷蔵庫など、白物家電は前回増税時より反応が早く、年明けから大きな動きがみられる。紙おむつなどもまとめ買いの傾向がある。(大型商業施設)
- ◆消費増税の影響で、調味料やカレー、日用雑貨のまとめ買いが始まっており、このあたりが売り上げ全体を押し上げたのではないかと考えている。3月は更に顕著な動きが出るのではないかと。(スーパー)
- ◆エアコンが前年の約2倍、冷蔵庫・洗濯機は約1.5倍と大型白物家電の動きが特に活発。やはり消費税の駆け込み需要の影響だろう。(家電)

### 【その他】

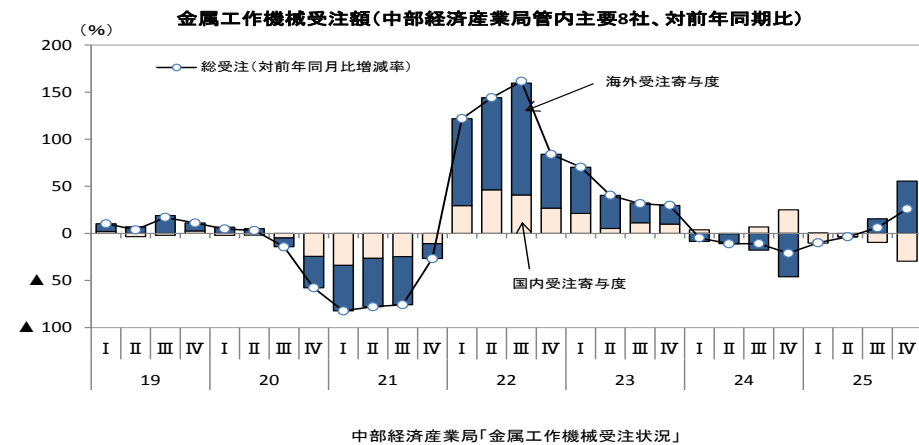
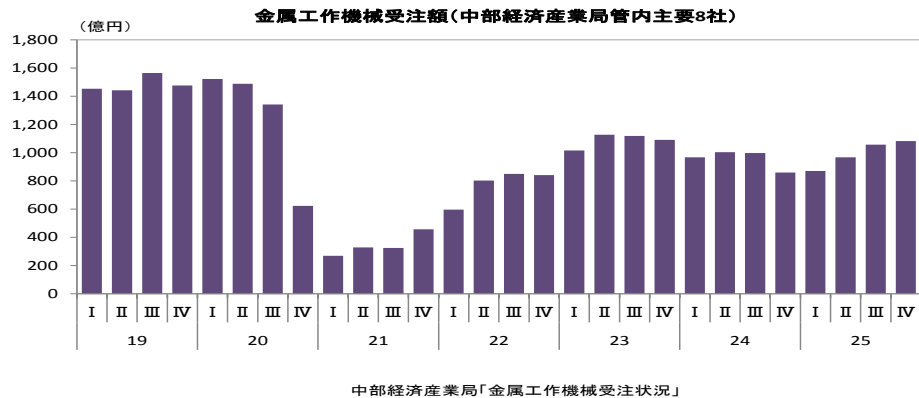
- ◆増税前ということもあり、3月に向けて駆け込み需要が増えると思込んでいる。(運輸業)
- ◆4月からの消費税引き上げについて、今になっての動きはあまりない。しいて言えば、消費税前の住宅需要も落ち着いてきたということくらい。(金融機関)



# 設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が増加したことで、2期連続でプラスとなった。
- 設備投資意欲DIは改善している。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加している。



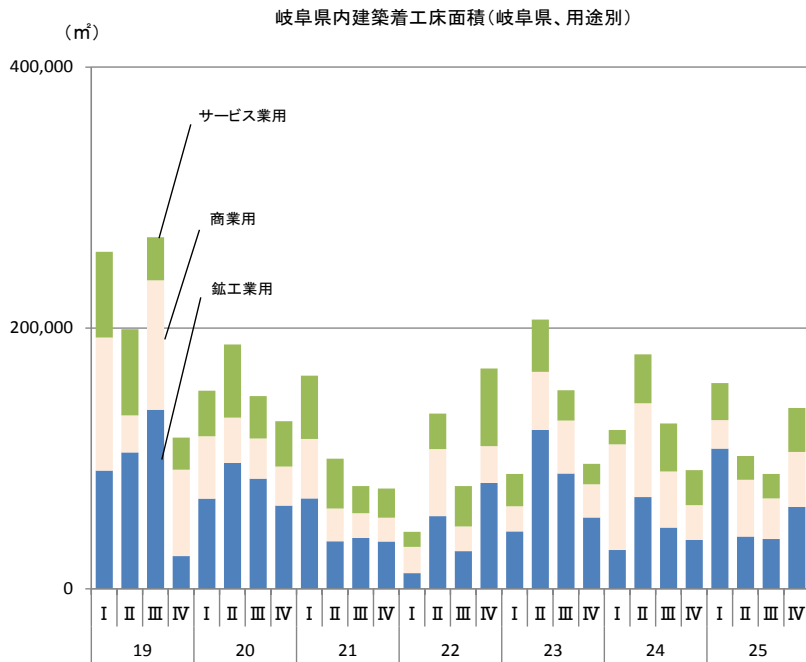
## 現場の動き

- ◆1月以降、中国からの大型印刷機械の受注と製品納入が増加した。
- ◆まったく反応がなかった中小企業が設備投資を検討する動きが多少出てきた。(生産用機械)
- ◆投資としての新規車両購入の検討予定はない。(運輸業)
- ◆新規設備に結びつく顕著な動きはない。(金融機関)

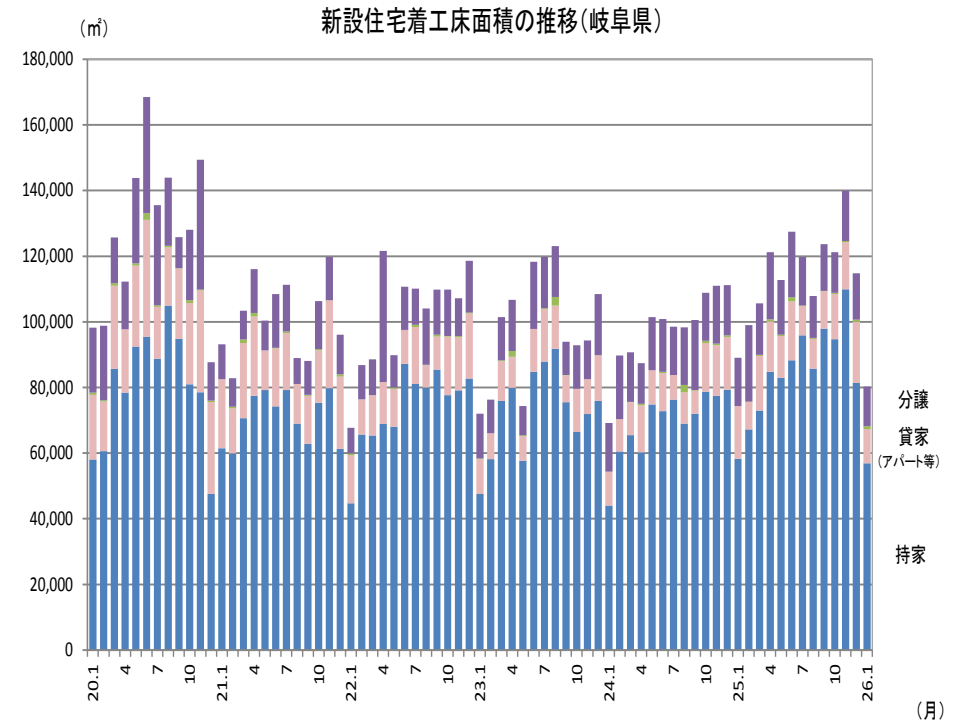
# 住宅・建築投資

○25年10－12月期の建築着工は、全ての用途で増加したことにより、全体では前年同期比52.3%の増となった。

○1月の住宅着工は、分譲、持家、貸家が減少したことにより、全体では前年同月比9.9%の減と17カ月ぶりの減少となった。



資料：県建築指導課「岐阜県建築着工統計」



## 現場の動き

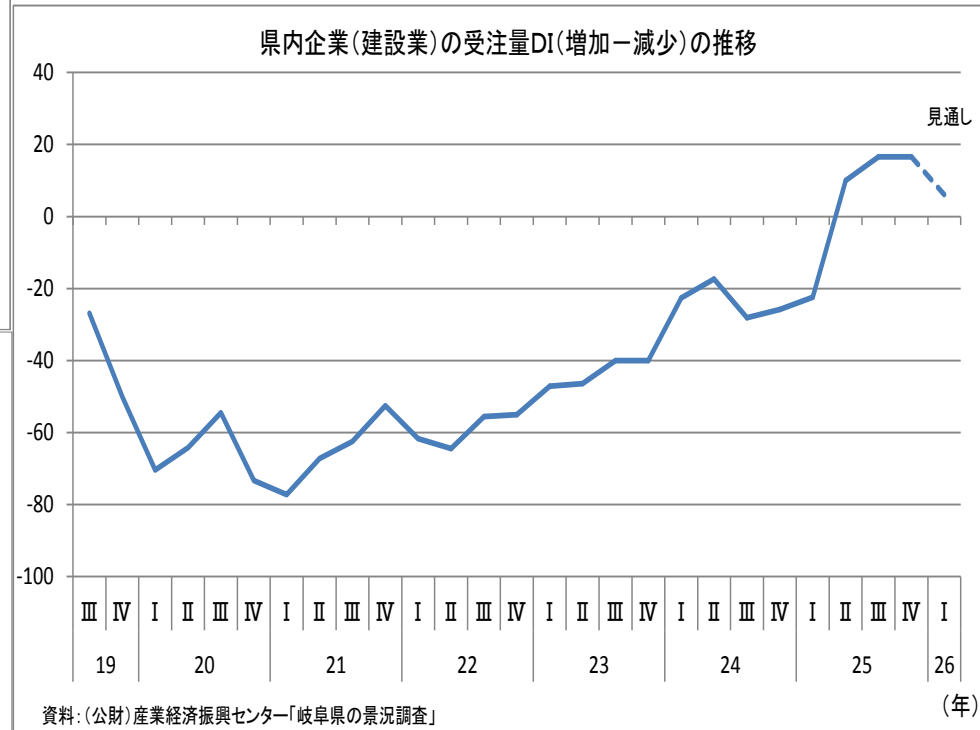
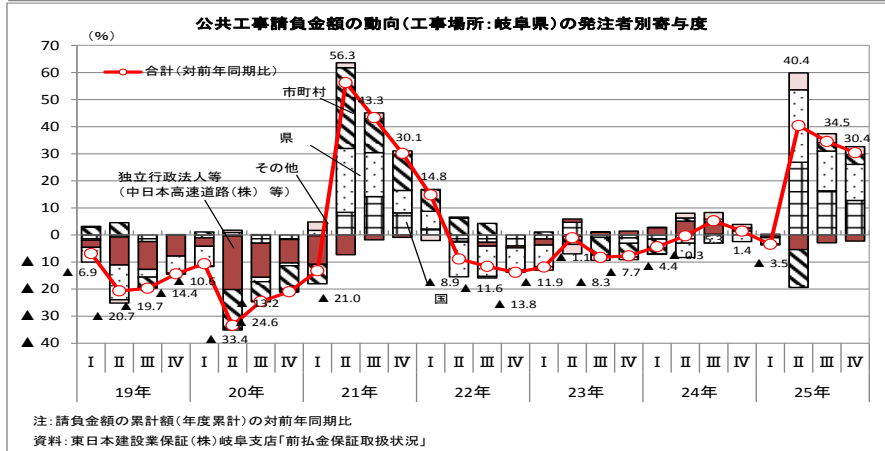
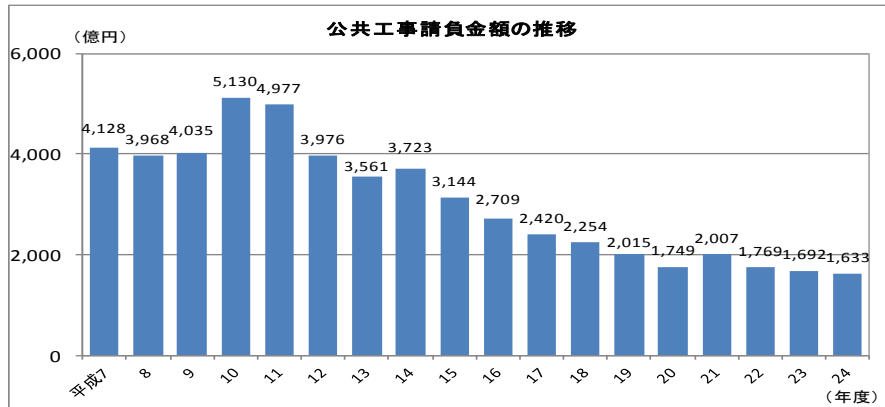
- ◆年末までの多忙さはないが残業は続いている。加工坪数は多少落ちている。3月までは物件があり、受注残もあるため急に落ち込むことはないが、4月以降は予測できない。
- ◆木材は今月に入り、仕入れは順調になった。一部、建材で調達が遅れるものもあるが、おおむね調達は資材不足の状況は脱した。(以上、住宅建設)
- ◆原木の流通量は、前月から減少している。需要に対して依然として生産が追いついていない状況である。(森林組合連合会)



# 公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。

○25年10－12月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村からの発注が増加したため、対前年同期比30.4%増と3期連続で前年同期の水準を上回った。



## 現場の動き

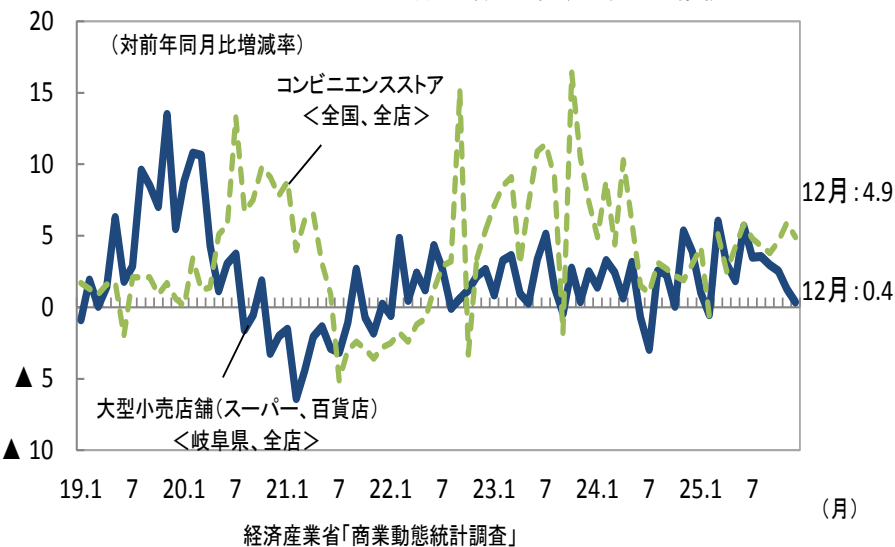
◆4月の消費税引上げ前に、建設工事物を引渡しできるよう、各社とも工期に追われている状況である。一方、技術者不足と資材価格の高騰に各社苦慮している。(業界団体)

# 個人消費(流通・小売)

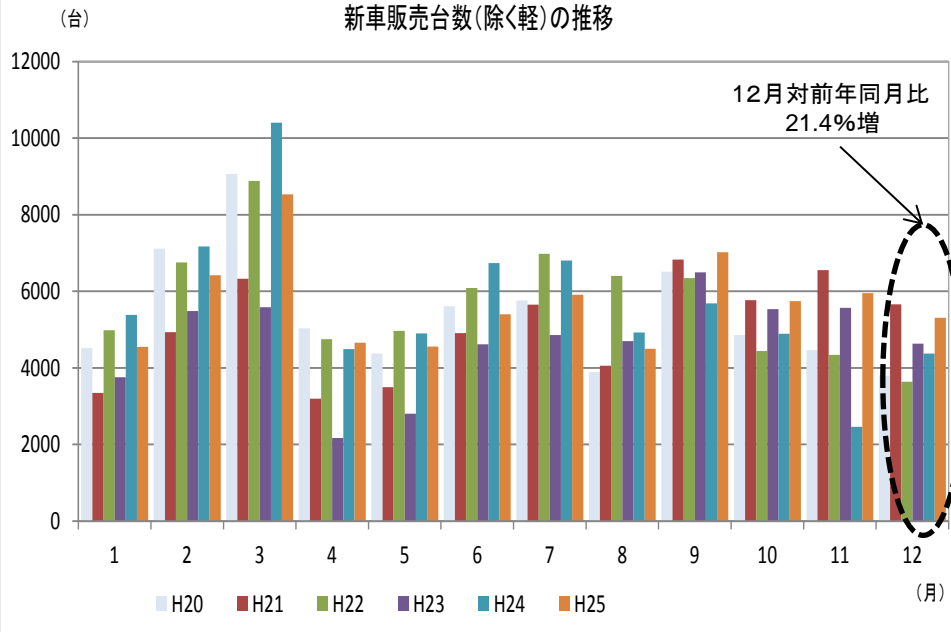
○25年12月の大型小売店販売額は、対前年同月比0.4%増と10カ月連続の増加となった。

○25年12月の自動車販売は前年同期比21.4%増と4か月連続の増加となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び  
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除く軽)の推移



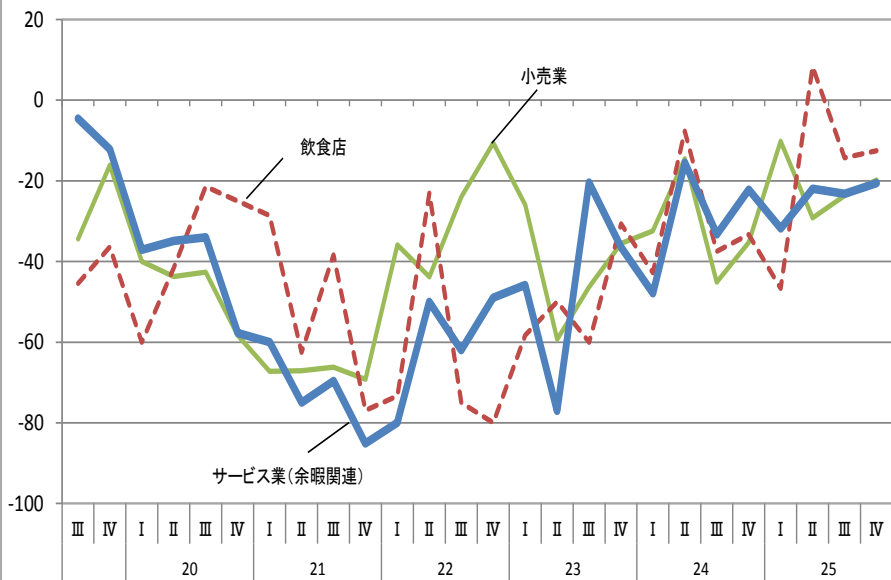
## 現場の動き

- ◆「衣料品」は寒さにより春物衣料が動かず、「食料品」は堅調に推移。
- ◆2週連続で週末に積雪となった影響は大きく、当日の来客は前年比約7割と大きなマイナスとなった。
- ◆雪の影響は少なからずあった。バレンタイン直前の時期に降ったのが特に痛かった。(以上、大型小売店)
- ◆今月はオリンピックの影響もあり、ウインター関連が好調だった。ウインター関連は対前年同月比で約3割の増。(スポーツ用品)
- ◆野菜の相場は以前高いままだが、地産地消の地場野菜は好調に売れており、消費者の中に安全志向が高まっているのを感じる。(スーパー)
- ◆2月の売り上げも好調で、対前年比で約1.2倍の伸びとなった。客数は微増だが客単価が上がっており、高価格のものが売れる傾向が顕著に出ている。(家電)

## 個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第Ⅳ四半期の小売業については売上高は増加したものの、販売価格は減少。サービス業については売上高、販売価格ともに増加。

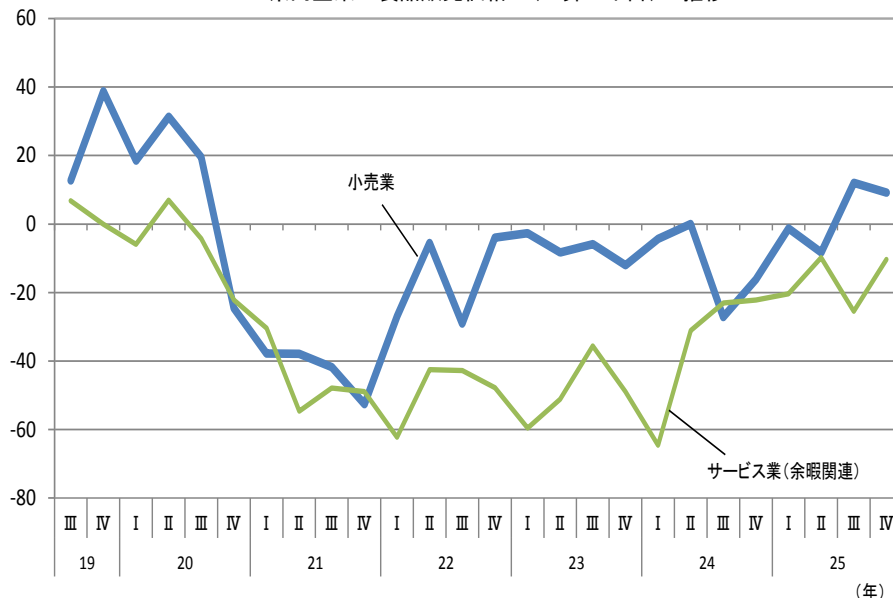
県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



資料:(公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

(年)

県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



資料:(公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

(年)

### 現場の動き

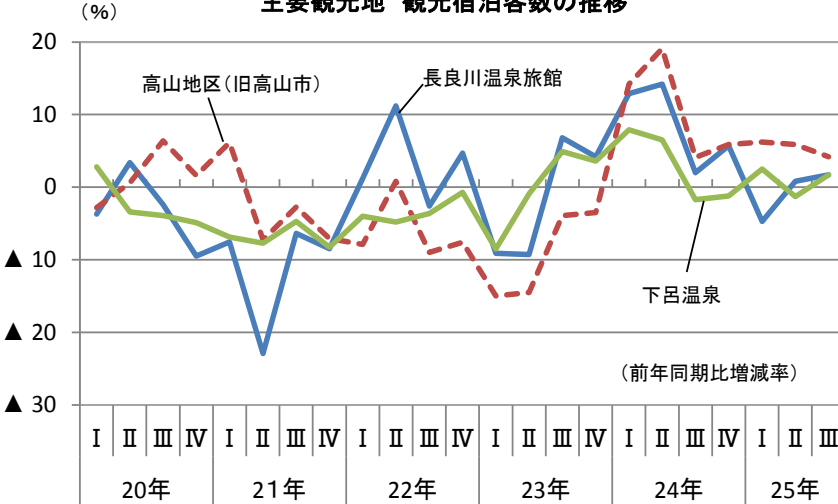
- ◆2月は商店街のイベントは何もなく、人通りは少なかった。
- ◆2月の売り上げは前年同月比で105%。(以上、大垣市商店街)
- ◆前年同月比で100%。寒い日が続いて、お客様が出歩かなかった。
- ◆前年同月比で115%。2月中旬からよくなっている。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆前年同月比で100%。2月は上昇傾向にあったが、大雪で観光客が少なくなり、前年並み。(高山市商店街)
- ◆前年同月比で95%。2月は雪が積もりその影響もありよくなかった。(多治見市商店街)
- ◆婦人衣料を除く物販は、既存店舗において売り上げ、客数とも前年同月比で微増であった。婦人衣料は気候が寒かった事などにより春物が苦戦し、売り上げ減となった。(アクティブG)
- ◆全般的に荷量の動きがよくなり、会社にとっては追い風となっている。お客様でいうとメーカー物流が活発になってきたと感じる。
- ◆トラックや乗務員が減っているのので、全ての注文をさばききれていない。トラックの稼働率は高い。(以上、運輸業)

# 観光

○平成25年第三四半期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比1.7%、高山地区(旧高山市)が4.2%、下呂温泉が1.7%と全ての地区で増加した。

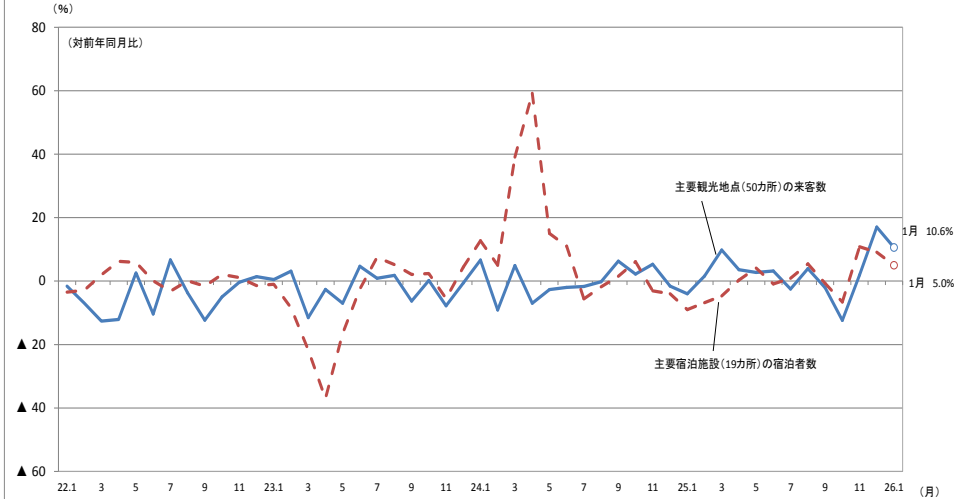
○主要観光地における1月の観光客数は、前年同月比10.6%増と3か月連続で前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同5.0%増と3か月連続で前年を上回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



県統計課「グラフで見る岐阜県経済」

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



※県観光課 調べ

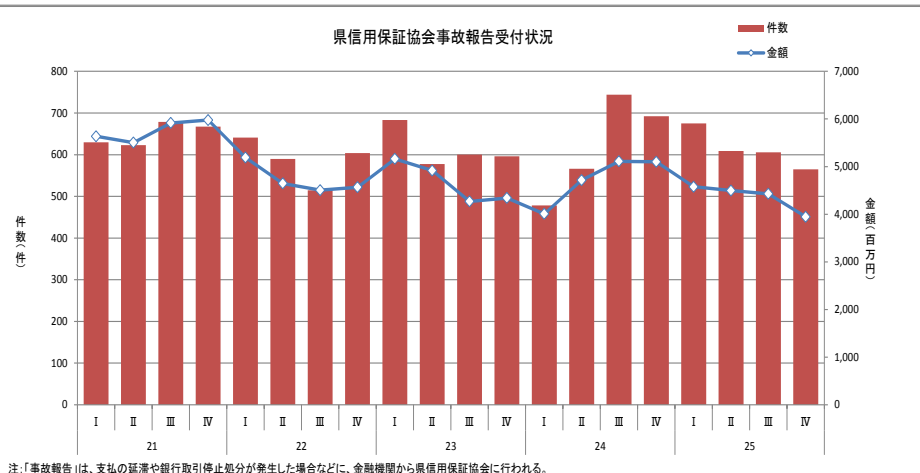
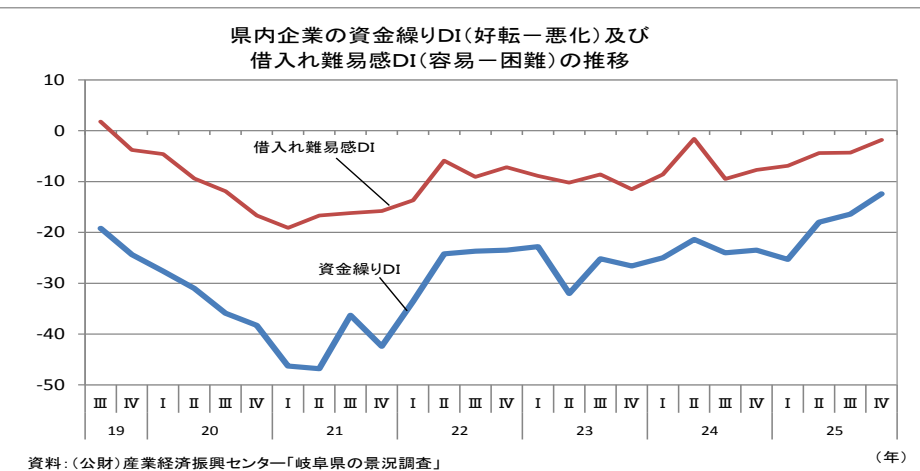
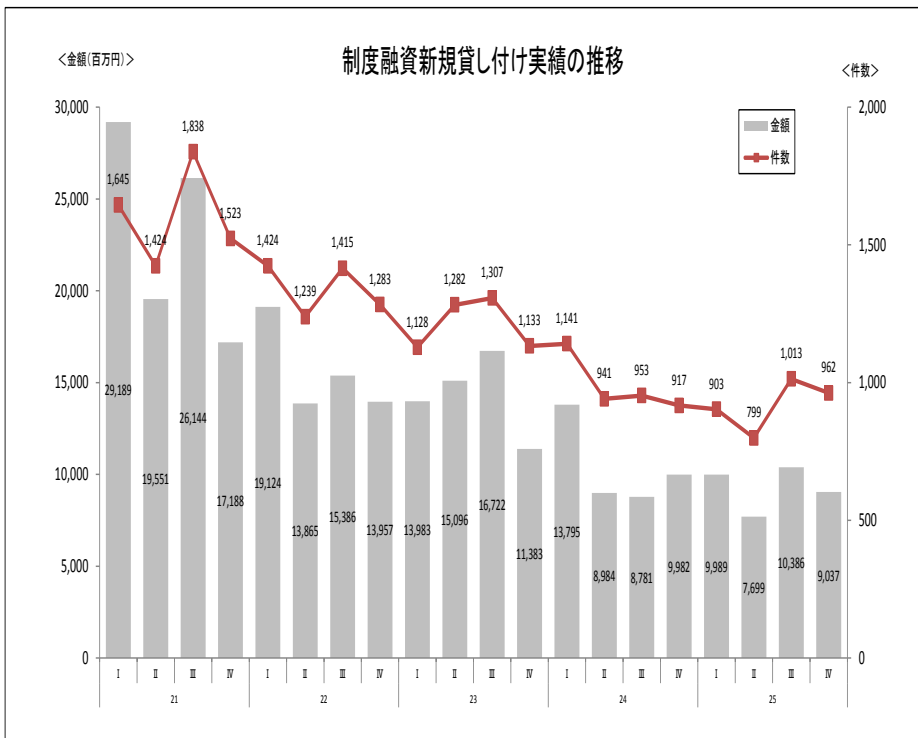
## 現場の動き

- ◆大雪によるキャンセルなど影響が及んだ施設が一部で見られるものの、宿泊客数は総じて前年をやや上回る模様。インバウンドは旧正月における台湾や香港に加え、東南アジアなどが好調。(宿泊施設の総括)
- ◆大雪による団体客のキャンセルが発生した。 ◆白川郷ライトアップに伴う宿泊客が好調。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆団体予約は少なかったが、インターネット予約が伸びた。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆学生の卒業旅行等を中心に予約が増えている。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドの問い合わせは常にあり、慎重に選別している。 ◆台湾からの宿泊が集中。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆タイ、台湾、香港と動きが出てきている。温泉、雪というイメージが良いのではと感じている。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは旧正月期間中が好調。 ◆台湾、香港、タイ、シンガポールの個人客が好調。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆台湾は依然として好調で、韓国も前年よりは大きく増加。タイ、シンガポールも動き出している。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆台湾、タイからの予約・問い合わせが激増している。(奥飛騨の宿泊施設)

# 資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

## <新規融資実績>

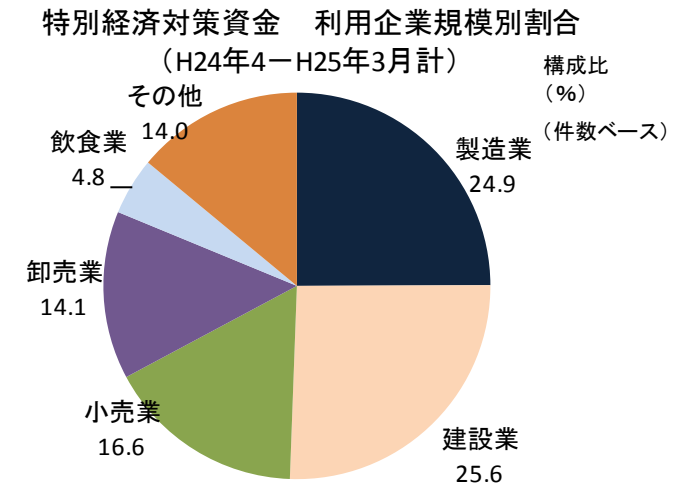
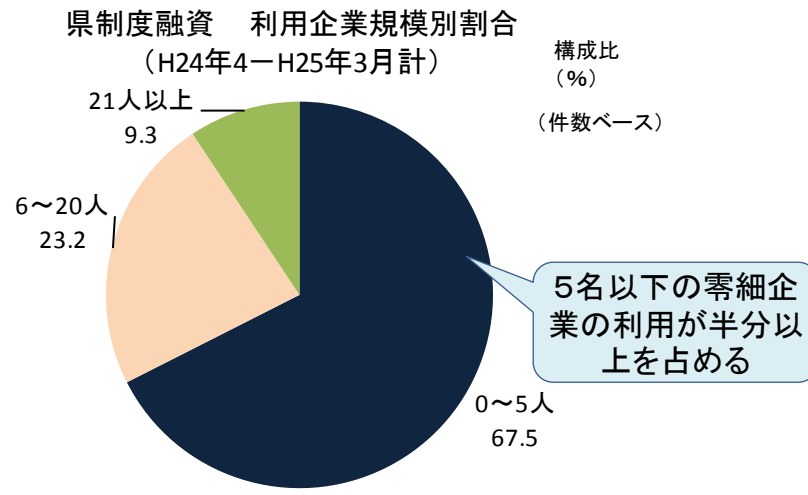
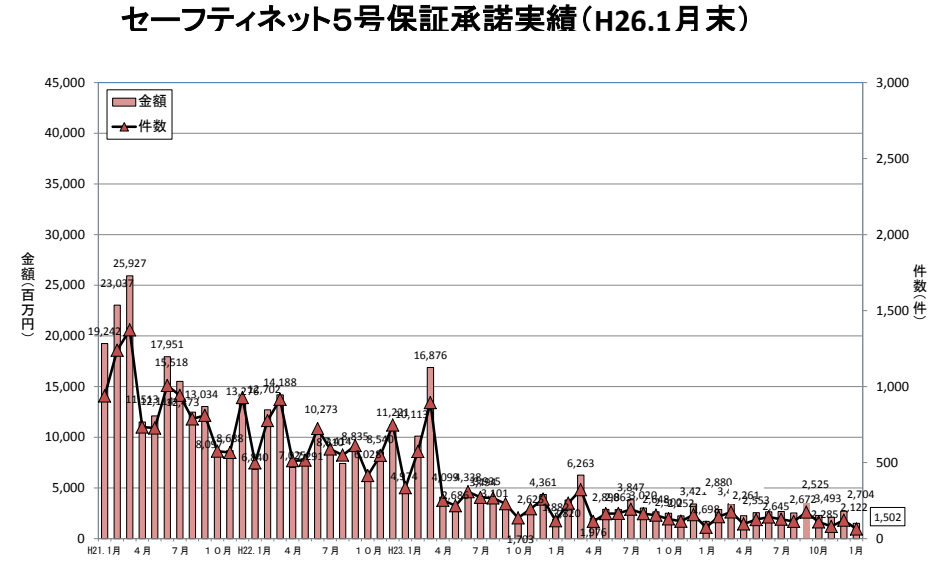
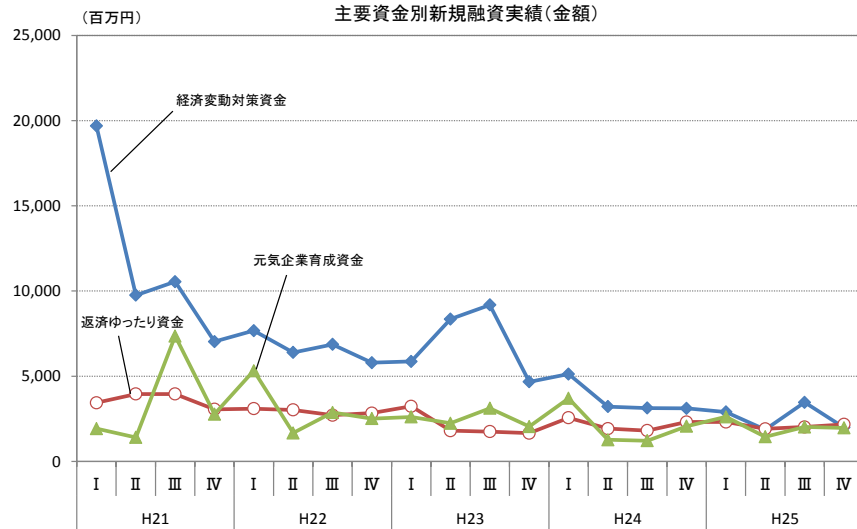


## 現場の動き

- ◆資金需要は、横ばい。
- ◆資金需要自体には変化はない。12月に需要があり1月に落ち込み、3月に向けて需要があるという、例年の資金需要の動きである。多いわけではなく昨年度並みといったところである。(以上、金融機関)

# 資金繰り-2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

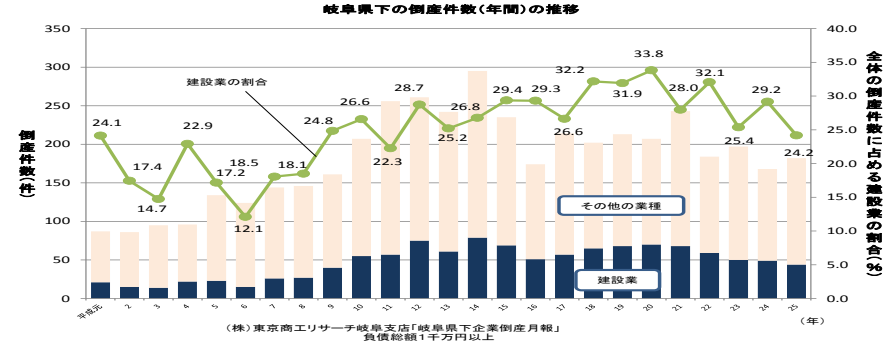
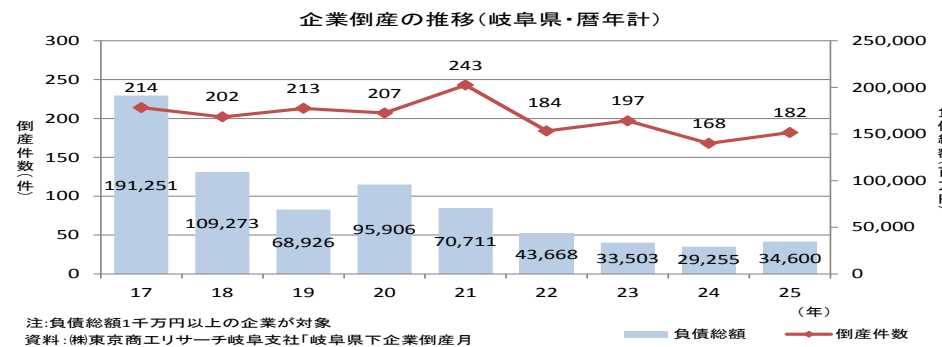
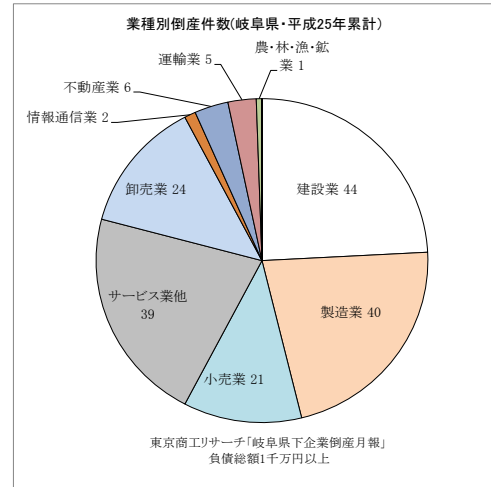
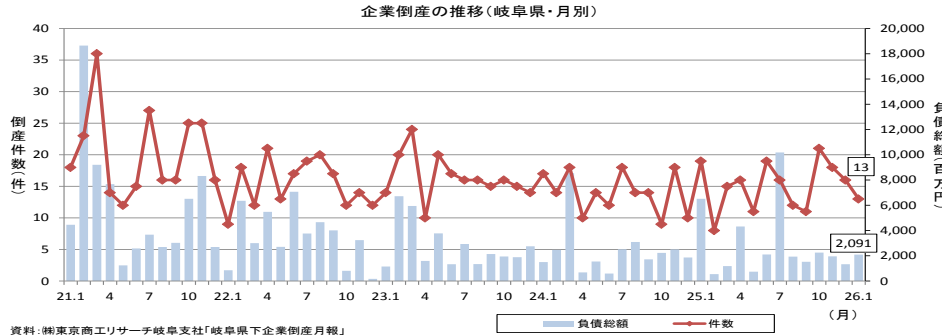




# 倒産

- 1月の倒産件数は前年同月比で6件減の13件となった。
- 平成25年の倒産件数は182件となり、前年から14件増加。負債総額は346億円で2年ぶりに増加に転じた。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



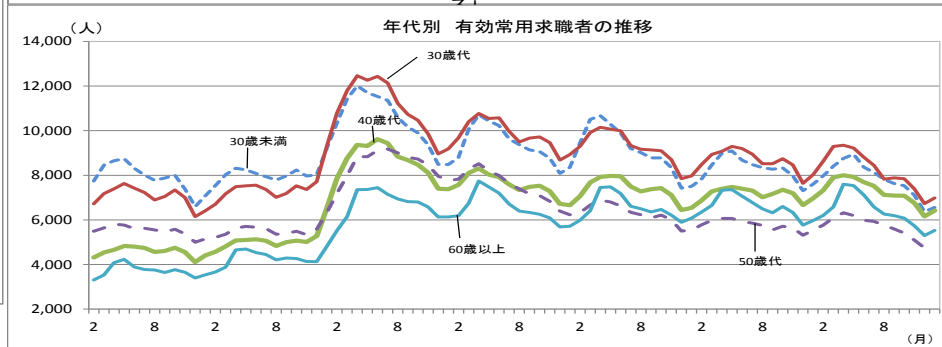
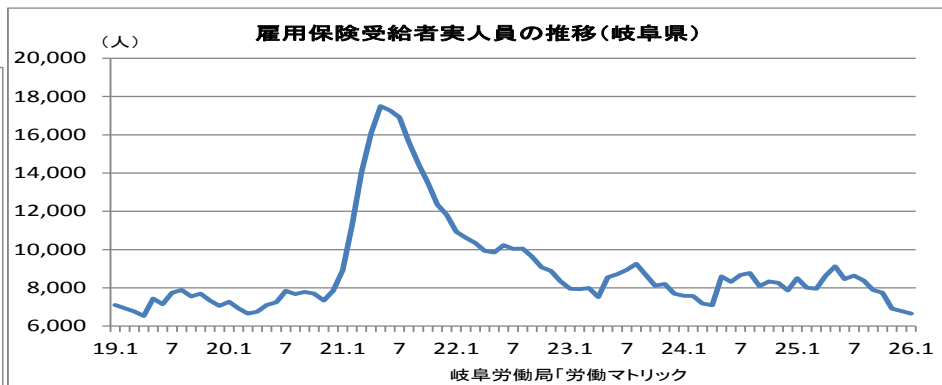
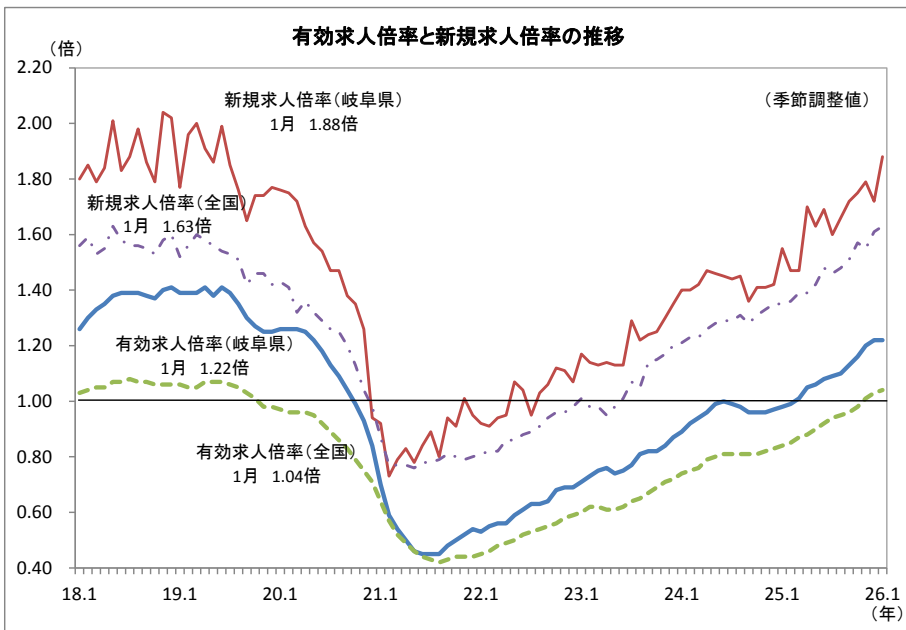
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆平成26年1月の県内倒産件数は13件、負債総額は20億9100万円となった。倒産件数は前年同月比6件減少、負債総額は前年同月比67.9%の減となった。
- ◆所謂政府の経済政策の効果が国内経済の環境を変えているのは確かではあるが、中小零細企業において景気浮揚の恩恵を受けていないとの見解が多数を占めており回復感が実感として乏しい状況に変わりはない。
- ◆中小零細企業の倒産動向について、円滑化法による政府支援策で延命し、抜本的な経営改善が先送りされた企業は多く、消費税引き上げ以後の景気環境の失速による場合の影響は不透明である。

# 雇用

○1月の有効求人倍率は1.22倍と前月と同水準。また、新規求人倍率は1.88倍と前月より0.16ポイント上昇。

○1月の雇用保険受給者人員は6,647人と前年同月と比べて21.8%減少した。

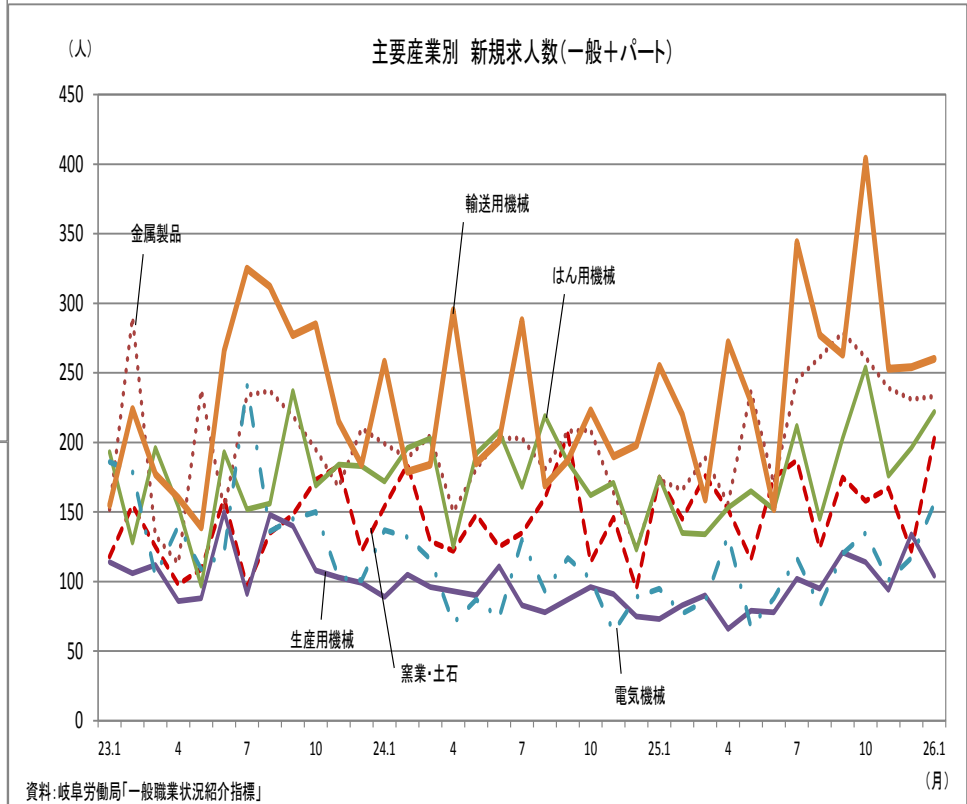
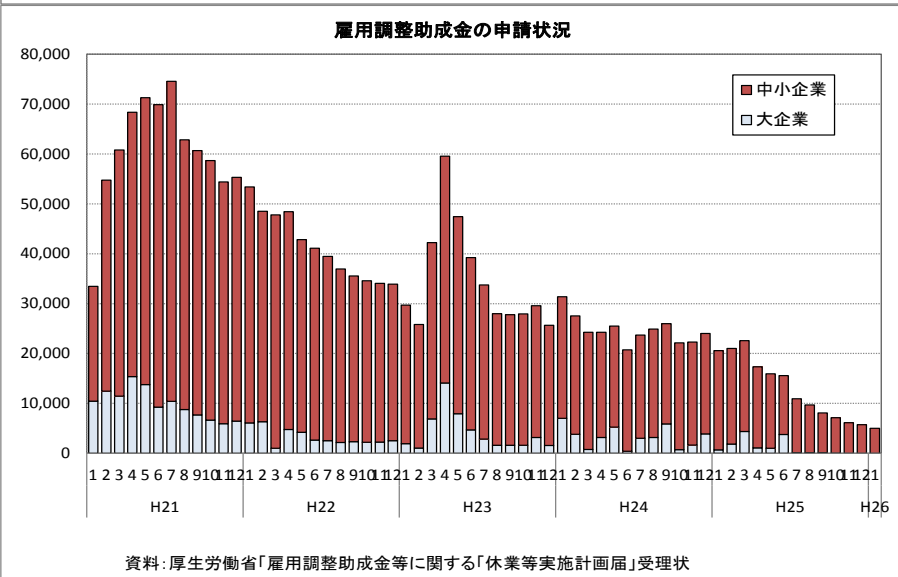
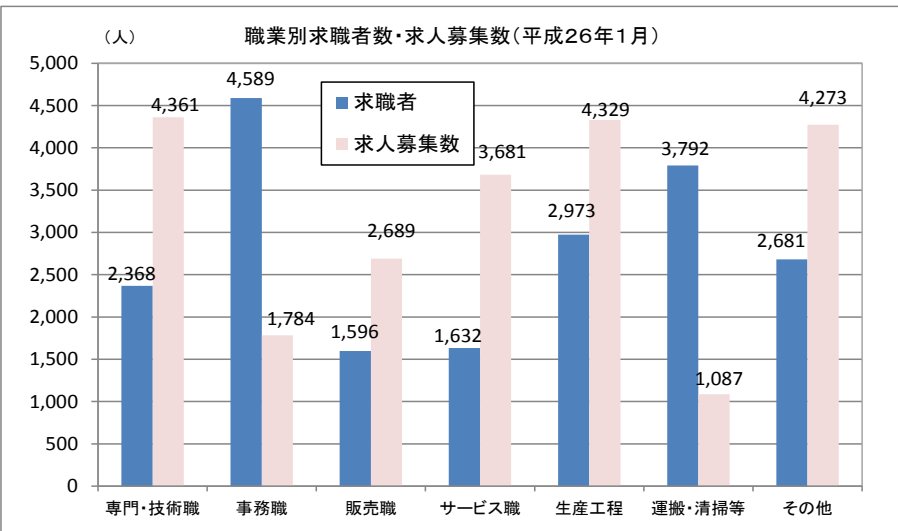


## 現場の動き

- ◆人材確保には苦慮しており、求人に対する応募数が激減している。(食品製造)
- ◆3月も横ばいの予測で、非正規従業員の手配を継続中。
- ◆人員が不足している。派遣社員を募集しているが応募もなく、土曜の臨時出勤で凌いでいる。(輸送用機械)
- ◆1月に中途採用で事務系1名、技術系1名を採用した。引き続き、営業系や技術系の中途採用の募集を行っている。(金属製品)
- ◆中途採用は必要に応じ実施しているが、グループ全体での正社員数は充分満たしているため、現在のところ新規採用の予定はない。(プラスチック)
- ◆現在、ハローワークに求人を出しているが良い人材が来ない。(林業事業体)
- ◆昨年同月比180%(予想)と、1月に比べると一服感を感じるものの、引き続き受注数は伸びている。(人材派遣会社)

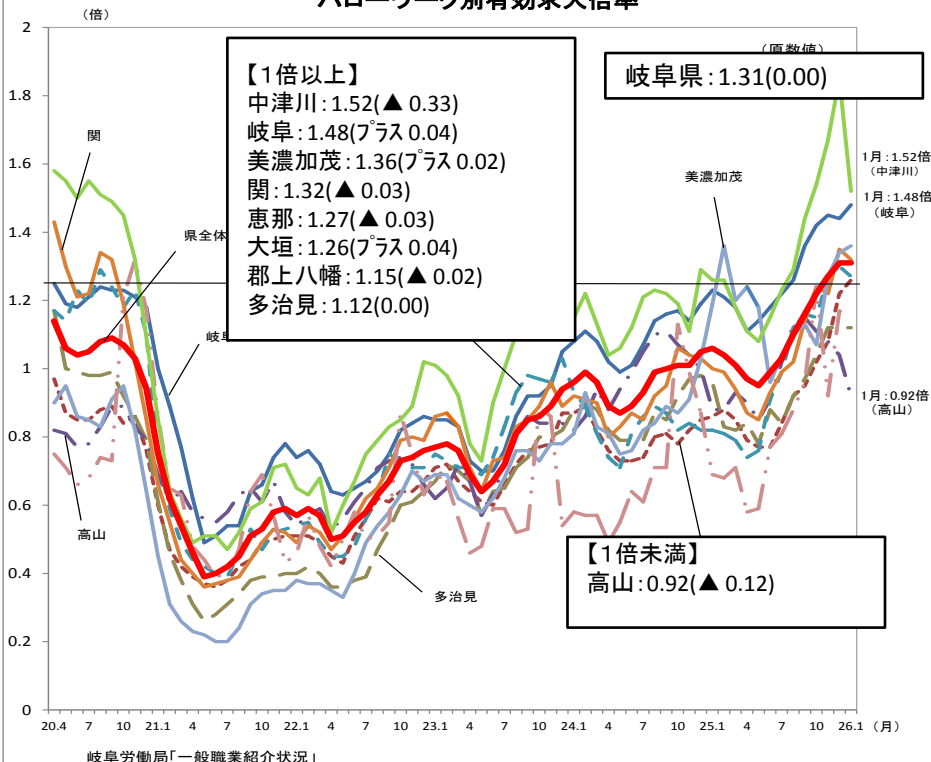
# 雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい状況が続いている。
- 新規求人は生産用機械で減少したものの、窯業・土石、はん用機械等の産業で増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



# 雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



## <ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク大垣>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数も減少。

## <ハローワーク関>

- ◆ 求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

## <ハローワーク美濃加茂>

- ◆ 求人者数が増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

## <ハローワーク多治見>

- ◆ 求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。
- ◆ 窓口は混雑している。

## <ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク中津川>

- ◆ 求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。
- ◆ 窓口は混雑している。

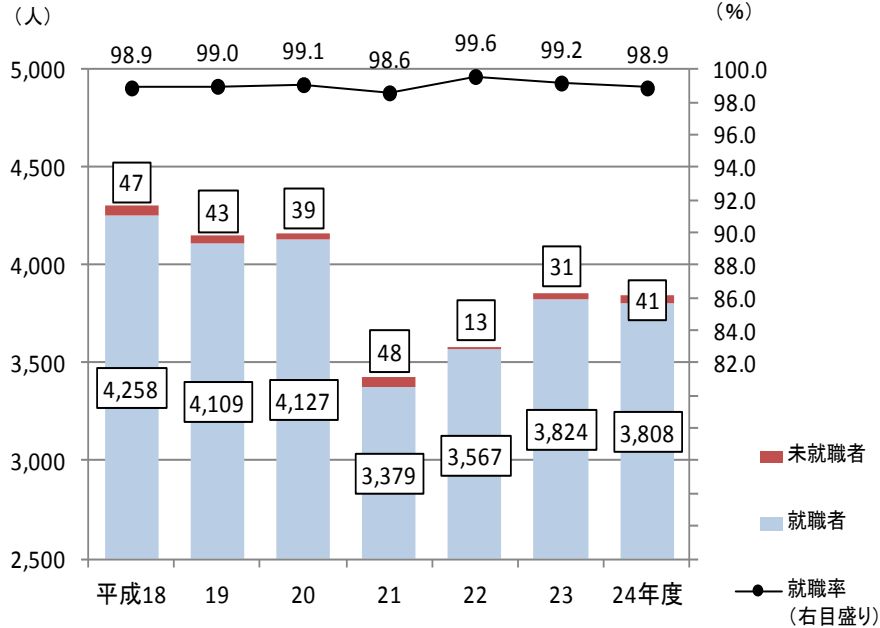
## <ハローワーク高山>

- ◆ 求人者数は横ばいだが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

# 雇 用(高校新卒者の就職)

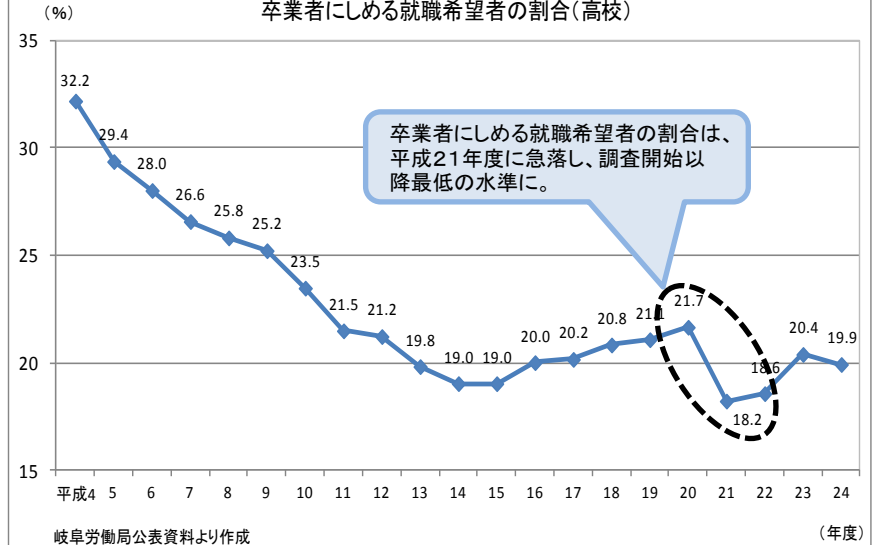
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



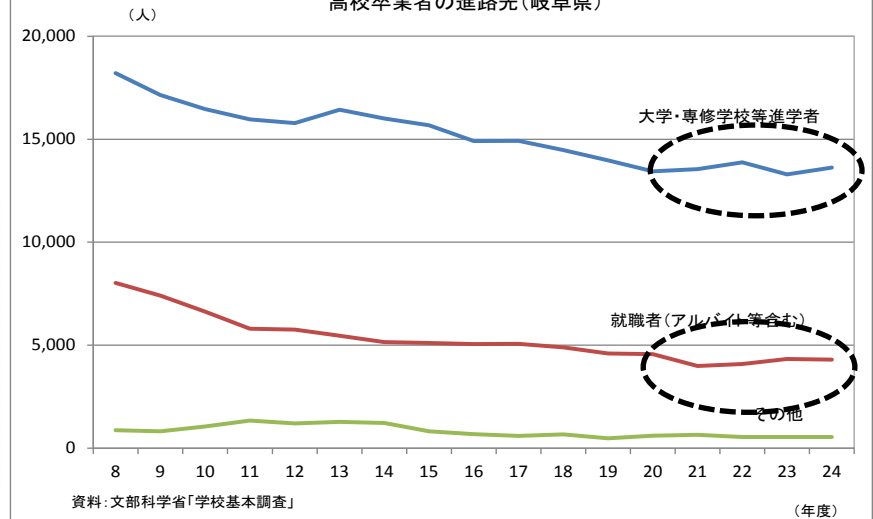
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



岐阜労働局公表資料より作成

高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

## 現場の動き(求人状況)

＜ハローワーク岐阜、大垣、多治見、高山、関、美濃加茂、中津川＞

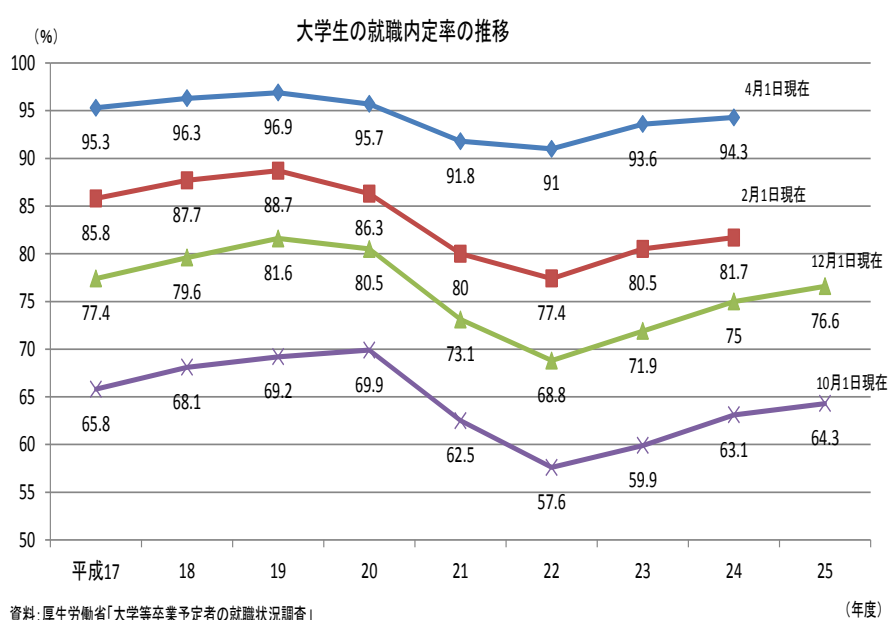
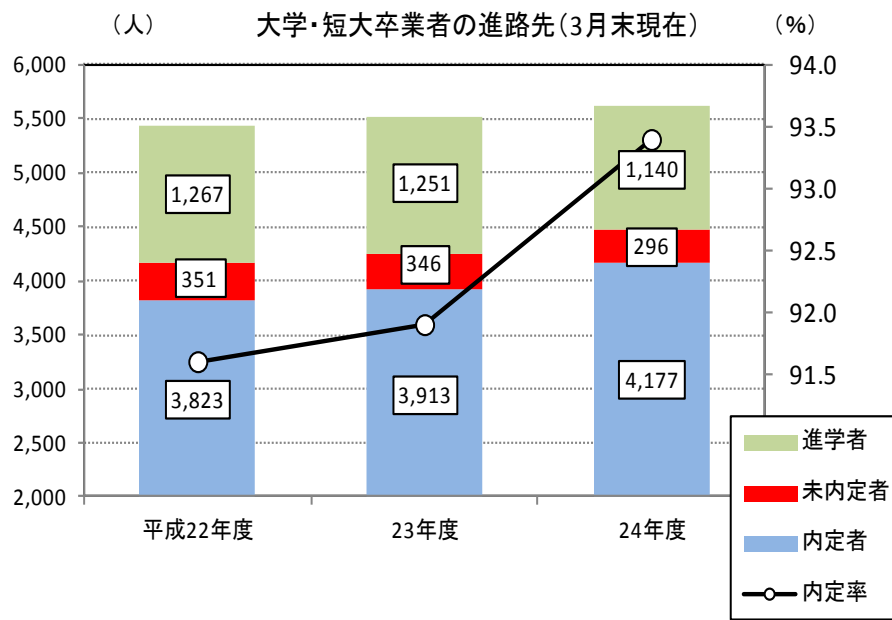
◆高校卒業予定者の求人が増加。

＜ハローワーク恵那＞

◆高校卒業予定者の求人が減少。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 平成24年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 平成25年度の卒業予定者については、前年度同期より内定率が上昇傾向。



## 現場の動き

### 【岐阜県内の主な大学】

- ・2014年卒の2月上旬の内定率で学部生は86.7%前後(学生報告ベース)、修士生が88.7%で、昨年、同時期よりは10%UPの状況。
- ・2014年卒の内定状況として76%程(報告ベース)で、昨年の同時期に比べると7%程ダウンの状況。
- ・2014年卒の内定状況として70%前半の状況(学生報告ベース)で昨年度より2~3%ダウン。

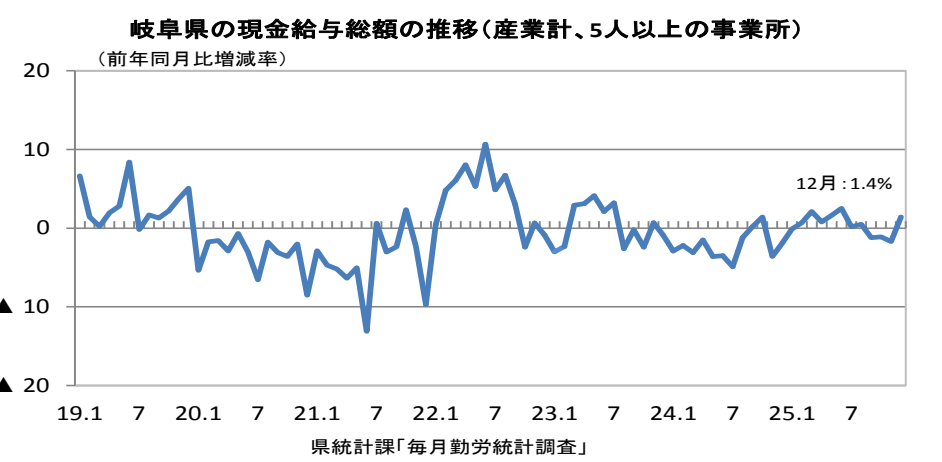
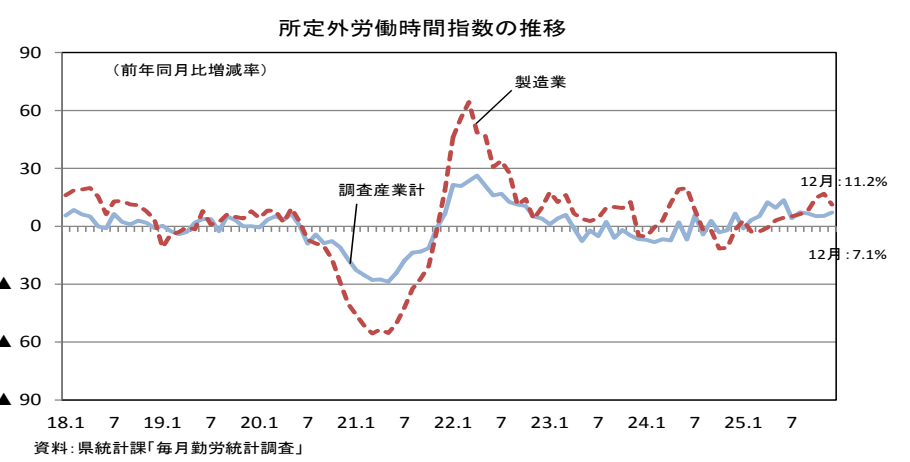
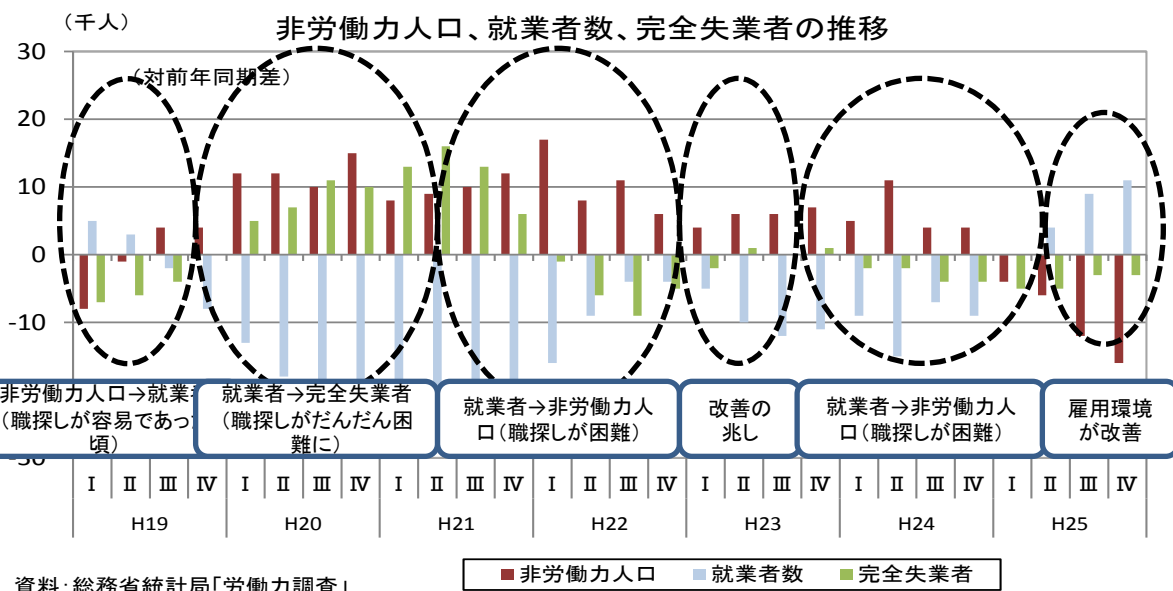
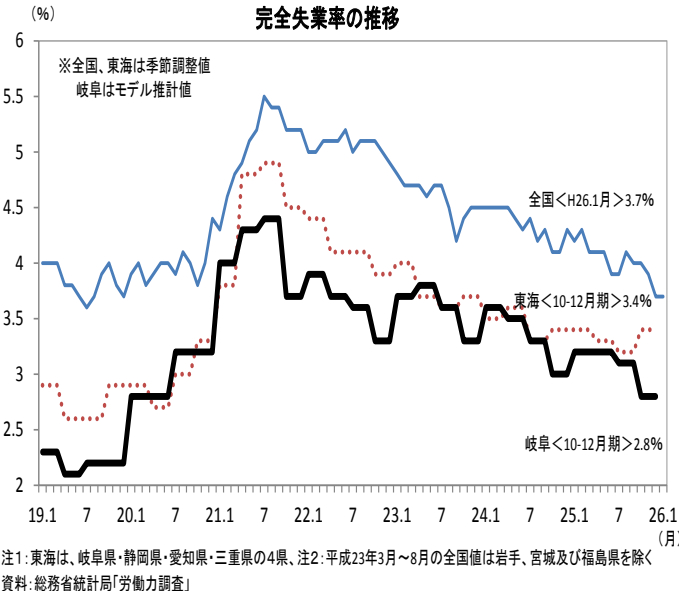
### 【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は2月上旬で90%超えた状況で昨年より10%程UP。
- ・2014年卒の内定状況は2月上旬で約66%(学生報告ベース)の状況で、1月の集計時と大差ない状況。
- ・2014年卒の内定状況は、2月上旬で四大72.7%・短大50%(学生報告ベース)。



# 雇用(完全失業率)

○平成25年第Ⅳ四半期の完全失業率は2.8%と前期比で0.3ポイント改善。  
 ○平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成23年以降に再び厳しい状況となったが、平成25年第Ⅱ四半期以降では雇用環境が改善している。



## < 経済・雇用の現状（総括） >

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送機械関連を中心に受注や生産が増加しており収益が改善する傾向が続いている。  
生産用機械やはん用機械では、国内企業が設備投資を検討する動きがみられる。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上げが増加している一方で、原材料価格及び燃料価格の上昇が続き、製造コストを押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工では住宅着工増により好調な状況が続いているが、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、食料品は堅調に推移しているが、気温が低かったため衣料の動きが鈍かった。大型店では、保存可能な食料品や日用品を中心に、3月にまとめ買いの動きが本格化する兆しがみられる。
- 観光は、大雪によるキャンセルなど影響が及んだ施設が一部あったものの、総じて前年をやや上回る模様。インバウンドは旧正月における台湾や香港、東南アジアなどが好調。
- 雇用面では、生産量の増加により業務量が増えたため人手不足が発生している企業が出ている。派遣会社に対しては企業からの派遣要望が高い状況が続いている。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然少ないが、下げ止まりの兆しが感じられる。